

第14回IRO救助犬世界選手権大会

2008年6月30日～7月6日

開催地 Samobor 市 (クロアチア)

主催 CRDA (Croatian Rescue Dog Association) IRO 加盟

報告者 澤田 和裕 IRO 国際審査員

本年度、OPDES からアジア地域では初めてのメインジャッジとして世界選手権に参加して参りました。

今回は18カ国、31団体より105チームの申し込みがあり4日間の熱戦が繰り広げられました

日本からも RDTA (救助犬訓練士協会 神奈川) より4チームが参加、中でも今回初出場の藤野 アル (マリノア) チームが瓦礫部門で健闘、見事合格されました

私が審査を担当した **Dexterity** (熟練作業) はメインスタジアムにて行われる救助犬としての適正テストのようなもので、全犬の集中力 操作性 適応力などが審査されます。

もし嗅覚作業で高得点を獲得したとしてもこの熟練、あるいは隣で行なわれる服従作業でそれぞれ70%未満の場合はたとえ合計点数が十分であったとしても不合格になってしまうという大事な科目です。

また試験規定において毎年細かな変更点がありなかなか遠くアジア地域まで届かない部分もありますので、私が今回のチャンスで得られた情報を救助犬の訓練にかかわっておられる日本、韓国、台湾、タイの仲間たちにぜひ伝えたいと思っております



メインスタジアム



Samobor 市長のあいさつ



審査員



監督会議



パレード



開会式



梯子わたり



動く橋



遠隔



CRDA の皆さん